門
赤ウイレックス

東京、滋賀に技術拠点

ICR受注増に対応

前9月期は計画通りの着地

総合衛生管理サービスを全国展開する赤門ウイレックス（社長＝山田晃也氏、本部・愛知県長久手市戸田谷1323）の2023年9月期業況は、アスベスト（石綿）対策、食品工場・製造工場の設備維持管理、厨房・衛生設備メンテナンス、クリーンエリア環境管理、空調システムメンテナンスなど各事業項目が順調な進展を見せ、「計画通りの着地となった」（山田晃也社長）とする。

主力事業の一つで前9月期においても計画通りの伸びとなったアスベスト対策では、同社独自の吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術「アスベスト除去AAA工法」が一般財団法人日本建築センターによる「建築技術審査証明」を取得していることに加え、「現場の事前調査・粉塵測定・分析・書類作成・除去工事・残浮処理等、ワンストップで対応できる体制を整備している」（取締役常務執行役員・環境衛生事業本部兼技術本部長・成田一弘氏）のが強み。

アスベスト対策を巡っては、今年9月29日付で建築物の解体・改修工事における石綿含有の事前調査は有資格者が実施することが義務づけられ、10月から施行された。具体的には、解体・改修・リフォームなどの工事全般について石綿含有の事前調査を行うことが必要となり、その事前調査は厚生労働大臣が定める講習を修了した者（建築物石綿含有建材調査者）等が行うことが義務づけられた。今回の法改正は、建設業全般に直接関わってくるものだけに関心は高く、同社へも改正の内容に関するセミナーでの講師依頼などが相次いでいる。同社は建築物石綿含有建材調査者をはじめ、建築設備管理や衛生管理に関する国家資格を持つ人材を多数擁しており、法改正を機に今後出番が増えてきそうだ。

事業体制では10月6日付で東京技術センター（東京都足立区）、同月23日付で空気清浄技術センター（滋賀県草津市）を矢継ぎ早に開設した。東京技術センターは、主に関東エリアの顧客に対して従来以上に機動的に対応する狙いで立ち上げた。同社はすでに本部近接地に安全環境センターを開設し、関西に分室を持って活動しており、研修施設としてはこれで3拠点目となる。同社は『安全はすべてに優先する』を理念として掲げ、実践型の安全体感・体験トレーニング施設を併設する東京技術センターで社員を対象に実践的な送り出し教育を行っていく考え。

同社は長年に渡り製薬・食品製造、バイオテクノロジー研究、医療分野におけるクリーンルーム（CR）、バイオロジカルクリーンルーム（BCR）等の維持管理を行ってきた。空気清浄技術センターは、それらの実績を基盤にさらなる事業拡大を図るとともに、半導体、液晶・電子部品製造分野で欠かせないインダストリアルクリーンルーム（ICR）のメンテナンス、調査などの受注増に対応する拠点として機能する。山田社長は「長年手がけてきたBCR関連事業をさらに伸ばすとともに需要が増勢基調にあるICR関連事業も今後拡大させていきたい」と期待を込める。

プロモーションでは第26回インターフェックスWeek東京（2024年6月26日～28日、東京ビッグサイト）、HVAC&R JAPAN 2024（2024年1月30日～2月2日、東京ビッグサイト）、FOOMA JAPAN2024（2024年6月4日～7日、東京ビッグサイト）に出展する予定。山田社長は「人材教育に努め、地域を問わず高い品質のサービスをお届けしていく」とし、今期の経営方針である『挑戦と育成』に邁進する。

中部地区2023秋季空調・冷熱市場特集

オンダ製作所

上期、堅調な着地果たす

販促キャンペーン 11月からスタート

配管資材の総合メーカー、オンダ製作所（社長＝恩田由紀氏、本社・岐阜県関市広見851－3）の今年度上期業況は、新設住宅着工は減少傾向が続いたが、リフォーム・リニューアル工事が増加し、市況のプラス要因を背景に前年同期比プラスの着地となった模様。下期については、リフォーム・リニューアル市場が引き続き堅調推移が見込まれることから、同社としてもさらなる増販を展開する構えだ。

国土交通省の「建築物リフォーム・リニューアル調査」によると、今年度第1四半期（4月～6月）の建築物リフォーム・リニューアル工事受注高合計は前年同期比23・1%増の3兆4千507億円。また、一般社団法人住宅生産団体連合会の住宅景況感調査では、今年度第2四半期の景況（受注実績）は、「戸建住宅の受注実績は続くが、好調な賃貸住宅やリフォームが受注をけん引し、全体では前年を上回った」とする。第3四半期の受注見通しも「戸建請負住宅の市場環境は引き続き厳しい状況」とし、リフォームは「受注金額＋31ほど11期連続プラス」と続伸を予測する。

こうした市場動向を背景に同社はコルゲート管付架橋ポリエチレン管低巻きくさびタイプ「コルゲートイージーカポリ」、外径シール樹脂製ワンタッチ継手「Revos（レボス）」、リフォーム配管システム「スポットカバーシステム」、「フラットカバー」などに加え、WMV型流量調整バルブ、既設三管変換継手シリーズ、既設管変換アダプターを追加。リフォーム需要に応えるラインアップ強化を図った。

商品軸では、自然冷媒ヒートポンプ給湯器「エコキュート」のヒートポンプユニットと貯湯タンク間の配管に適する「カポリエコ」の販売を再開した。同製品は販売を終了していたが、生産設備の見直しなど生産体制が整ったことから販売を再開したもの。耐孔食鋼合金管と耐熱ポリエチレン層の二層管構造で鋼合金管の強度と樹脂管の施工性を兼ね備える。

販促戦略では、11月1日より工事業者を対象に「ありがとう60周年、オンダの恩返し」と銘打った「絶対もらえるキャンペーン」をスタート。

材料のキャンペーン景品が、家族や同僚との会話や笑顔を増やすきっかけになればとの2007年に「謝恩セール」としてスタートした人気企画。昨年より「絶対もらえるキャンペーン」とリニューアルし、合計で17回目を迎えた。

期間は来年3月31日まで（応募締切は2024年4月30日まで）。対象商品についている応募券の二次元コードをスマートフォンで読み取り、ポイントを集めて応募する。

対象商品は「Revos」を含むダブルロックジョイント22点と、「コルゲートイージーカポリ」などを含む樹脂管37点の計59点。

景品は、飲料・食品、お菓子・スイーツ、キッチン用品、雑貨など計100点のアイテムからポイントに応じ選ぶ。そのほか、今回、初めてユーザーアンケートで人気が高かった「オリジナルRevosグッズ」が当たる抽選企画も用意。当企画は、ダブルロックジョイントRevosの発売5周年を記念して行われる。

オンダ製作所はこの11月に創業60周年を迎えた。配管資材分野で存在感を放つ同社は新しい一歩を踏み出した。